

目標値評価の考え方

- 1 毎年度の評価は、測定地点ごとに、導出した月間値「降下ばいじん総量 10 t/km²/月以下」と比較し、達成率で評価する。

ただし、過去の降下ばいじん測定結果では、台風等の影響により溶解性降下ばいじん量のみで、導出した月間値を超過する月^{*}が存在している。溶解性降下ばいじんは水溶性の降下物であることから、このようなデータは評価対象に含めず除外することが適当である。

※上記月間値を超過した月の例：

令和元年 9 月（台風が本市に上陸） 千葉職業能力開発短期大学校

総量：18.8 t/km²/月

溶解性降下量：12.9 t/km²/月 不溶解性降下量：5.9 t/km²/月

- 2 目標値は、計画年度までに達成すべき数値として設定し、中間目標は設定しない。
- 3 目標値の見直し後も、苦情の状況等を確認し、必要に応じて対応を検討する。